

蒲郡市議会正副議長選

ともに異例の同数抽選

議長に波多野氏、副は共産・柴田氏

蒲郡市議会は12日、臨時会を開き、正副議長の改選を行った。20人の議員の無記名投票が行われた選挙は議会開会まで各会派での調整がつかず、議長、副議長ともに2氏が10票ずつの同数に。抽選までもつれる異例の事態となり、結果、議長に波多野努氏(市政クラブ、5期)、副議長には柴田安彦氏(共産、8期)に決まった。

連立と共産の過半数割れ、市政ク、公明など多党派

「議長は最大会派から4期目以上がまわし」と他会派と調整してきたが不調に終わった。昨年まで政策調整を行ってきた公明の伊藤氏が「市政クラブは藤氏が「市政クラブは本藤作氏の同意を得て

定数のうち半数を確保できていない。8人の新人が当選しており、新たな流れが必要」と議長選に名乗りをあげた。

先月28日から10日までの5回行われた各派代表者会議でも平行線をたどった。双方で他会派工作を行うまでになり、市政クは共産(2人)と協調。公明は、新人グループ「無所属の会」(4人)、民主系の「市民の会蒲郡」(2人)、無会派の来

抽選の結果で柴田氏を選んだ。東三河の5市議会に共産議員が副議長以上に就いたのは初めて。柴田氏は「議会の権威を高め、一元代表制として行政のチェック機能を果たしていきたい」と抱負を語った。



抽選する波多野氏(中央)、右は伊藤氏=蒲郡市議場で

議長選は第1会派で自民系の市政クラブ(8人)が推す波多野氏と、公明党蒲郡市議団(3人)の伊藤勝美氏(4期)が10票ずつに、引きにより決着をつけた。議長選で抽選を行ったのは1986(昭和61)年以來。



柴田安彦氏

波多野努氏

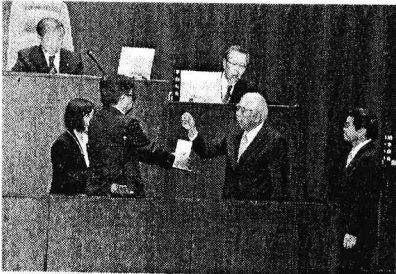
同市議会の正副議長は申し合わせにより任期を1年間としている。昨年までの議長人事は、過半数を確保していた市政クラブの議員を推して選任してきた。

しかし、定数2減の状況は一変していた。20で行った市議選後、市政クは昨年同様

蒲郡市会 正副議長、くじで選出

23.5.13 説

くじを引く伊藤氏(右)と波多野氏



蒲郡市議会の正副議長選挙が12日行われ、投票結果がいずれも同数となり、くじ引きで決着する同市初めの事態となった。任期は慣例で1年。

4月24日の統一地方選で行われた市議選(定数20)を受けた改選で、無記名投票の結果、議長選は波多野

努氏(市政ク、5期)と伊藤勝美氏(公明党市議団、4期)が10対10の同数となり、地方自治法や公職選挙法に基づいて、くじ引きをした結果、波多野氏が当選した。

副議長選でも、柴田安彦氏(共産党市議団、8期)と松本昌成氏(公明党市議団、4期)が同数となり、くじ引きで柴田氏が当選した。

同市では、1986年に議長選がくじ引きになった例があるが、正副議長がともにくじ引きとなったのは初めて。また共産党議員が副議長に就任したのは東三河の5市で初めて。

保守系の市政クラブ(8人)と共産党市議団(2人)が連携し、無所属の会(4人)や公明党市議団(3人)などと多数派を争った結果とみられる。